

事業概要

〔1〕生涯学習推進体制の整備

あらゆる市民が生涯学習を行うことができる環境の整備と学習行動の高揚を図るため、新・金沢市生涯学習推進計画に基づき、総合的な生涯学習体制の整備に努める。

- ① 金沢市生涯学習推進基本構想策定懇話会の提言（平成4年12月）に基づき策定された「生涯学習推進計画」（平成8年3月）の次期計画である「新・金沢市生涯学習推進計画」（平成18年3月）に基づき、社会環境の変化やライフスタイルの多様化をふまえた事業を実施する。
- ② 市民の学習を援助するため、専門的知識を有する生涯学習指導員を継続して設置する。

(1)生涯学習情報ネットワーク

ホームページ「金沢市生涯学習情報ネットワーク」で総合的な学習情報を提供する。

(2)生涯学習施設利用予約システム

インターネットにより施設の空き状況の検索・予約を可能にすることで、利便性を図る。

対象施設：中央公民館（長町館、彦三館）、女性センター、長土塀交流館

(3)生涯学習人材バンク「講師・指導者情報」

生涯学習の人材に関する情報を収集し、ホームページ上で提供し活用を図る。

(4)学校施設開放事業

金沢子ども条例の趣旨に基づき、子どものための学校施設の活用を推進する。

開放校 小学校60校（1分校含む）

中学校20校（うちナイター開放のみ1校）

〔2〕青少年教育

金沢を愛する心や、社会の一員としての責任感を培うとともに、世界に繋がる広い視野と豊かな国際感覚を備えた次代を担う子どもたちの育成をめざし、子どもの健やかな成長を促す各種の施策を推進する。

また、家庭、地域、学校、企業、行政等が一体となって子どもの育成を推進するため、家庭や地域、企業における教育力の向上のための活動を支援する。

1. 青少年対策

(1) 元気なまち金沢リーダー支援事業

地域を支える人材を育成し、地域の教育力向上を図るため、次の事業を実施する。

①かなざわユースリーダー創生塾

仲間づくりや体験活動を通じ、リーダーとして必要な知識・技術を身につけるとともに、地域活動参加への動機付けを行う。

②リーダー交流事業

宿泊研修等の団体間交流を通して、リーダーとしての資質の向上を図る。

③子どもサポーター支援事業

各種講座を実施し、地域で子どもを支える人材の指導力向上を支援する。

(2) 金沢子ども週間普及促進事業

金沢子ども週間（金沢子ども条例第14条）の趣旨の普及促進を図るため、金沢のコミュニティが一体となって子どもの育成を推進する下記の事業を展開する。

① 金沢子ども週間フェスティバル

児童館フェスティバルや子どもの活動発表を中心としたイベントを開催し、大人と子どもがふれあう機会をつくる。

② 金沢子ども週間「絆」フェア

キゴ山施設を使用し、親子のふれあいをテーマに、ものづくり等の体験活動を実施する。

※金沢子ども週間：家庭や地域等における子どものふれあいを通して、大人が子どもに目を向け、共に話し合い理解を深めるとともに、子どもの育成についての大人の役割の大切さを認識する。（10月第2日曜日から1週間）

2. 少年教育

(1) 子ども仲間づくり推進「元気いっぱい子どもコミュニティ推進事業」

市内65地区の子ども会における、子ども会活動の一層の活性化を図るため、子どもたちが主体となって企画・運営を行う活動や、地域の伝統芸能・特色を活かした活動等に対して助成を行う。

(2) 情報発信推進事業

子どもと大人のための遊びや学びに関する生涯学習情報誌を年4回発行する。

(3) ジュニアかなざわ検定

子どもたちが金沢について学び、ふるさとについての知識の習熟度を高めるとともに、歴史、文化、まちづくり、偉人等幅広い視野・視点を持ち、将来大人になったときに金沢を情報発信することができる人材の育成を目的として、小学4年生から中学生を対象とした検定を実施する。

・特に優秀な結果（100点）の児童・生徒を「小学生ジュニアかなざわ博士」、「中学生ジュニアかなざわ博士」に認定する。

(4) 各種少年団体活動支援

金沢市子ども会連合会、ボーイスカウト金沢地区協議会及びガールスカウト金沢地区協議会の活動に対し助成を行い、その活動を支援する。

(5) こころの茶室事業

小学校における体験学習の充実化を図るとともに、次代を担う子どもたちの豊かな人間性や人と人との絆を育むため松声庵を活用した茶道体験を実施する。

3. 青年教育

(1) 各種青年団体活動支援

金沢市青少年団体連絡協議会、金沢市青年団協議会及び金沢市BBS連盟の活動に対し助成を行い、その活動を支援する。

4. 青少年育成基金

(1) 第32回金沢少年の翼国内派遣研修事業（昭和55年度から実施）

子どもたちを鹿児島へ派遣し、研修地の社会・歴史・文化にふれるとともに、団体生活を通じ友愛と協調の精神を養い、今後の地域活動への積極的な参画を推進する。

派遣人数 72名（小学校5年生～中学校3年生）

期 間 7月22日～7月27日（5泊6日）

(2) 青少年国内受入

相互交流として他都市の青少年団体を受け入れる。

(3) 国際青少年受入

国際相互交流として外国の青少年団体を受け入れる。

〔3〕成人教育

市民の学習機会の充実に重点を置き、学習意欲の向上を図る。

そのほかPTA、地区公民館をはじめとする社会教育関係団体等の自主的な学習の取り組みについて、リーダー養成や講師派遣等の支援を行う。

(1) 「市民大学講座」

平成23年9月～11月 金沢市文化ホール

平成22年度 (文化ホール) 受講者 延べ3,966人	[テーマ] 暮らしを見つめ、ともに学ぼう～魅力あるまちづくりを目指して～
	9/27 坂東 眞理子（昭和女子大学学長） ； 錆びない生き方
	10/ 8 加藤 みどり（声優・俳優） ； 楽しく、美しく年齢（とし）をとろう ～アニメ「サザエさん」は年齢をとらないけど…～
	10/14 中島 誠之助（古美術鑑定家） ； 「目利き」の人生談義
	10/26 金田一 秀穂（杏林大学教授） ； 心地よい日本語
	11/ 2 海野 和男（昆虫写真家） ； 昆虫から学ぶ生き方
	11/16 杉山 愛（プロテニスプレーヤー） ； テニスを通して学んだこと

(2) 人権教育推進

すべての人々の人権が真に尊重される社会の実現をめざして、社会教育における人権・同和問題に関する学習活動を推進するため講演会や地域研修会を開催する。

①平成22年度人権問題講演会の開催

期 日	平成22年 7月13日	平成23年 2月15日
会 場	教育プラザ富樫	教育プラザ富樫
講 師	南雲 明彦	中野 レイ子
演 題	「ボク、発達障害と生きてます ～気づきから支援へ～」	「傷ついた子どもの心のゆくえ ～一人ひとりがかげがえのない 大切ないのち～」

②人権に関する地域研修会の開催支援、地域や家庭における学習環境の整備等
(人権ネットワーク学習会の開催、人権啓発ビデオの貸与)

〔4〕女性教育

女性の社会参加と学習機会の拡大、女性団体の活性化と相互の連携促進を図るため、各種講座の開催や女性学級の開設を行う。

(1) 女性学級開設事業

女性の学習機会の拡大と社会参加を促進することを目的として、地区公民館を拠点とした女性学級を開設する。「地域の活性化と生活設計」・「男女共同参画」・「ふるさと学」を基本テーマとして、地域コミュニティ、家庭生活、人権問題、これからの女性の生き方に関する地域女性の主体的な学習活動。

<平成23年度女性学級開設状況>

委 託 学 級	55学級	50,000円/学級	地区公民館振興協力会 (55)
学級担当者研修	2回		

(2) 女性の市政に対する理解を深める。

女性施設見学バス

市内公共施設見学バス(年間12回)を運行する。

(3) 女性団体組織

地域女性の連携組織である、校下婦人連絡協議会は、地区公民館単位(おおむね小学校通学区)ごとに組織され、49地区会員約1万7,000人を擁している。

これらの単位組織(通称校下婦人会)は相互の連絡調整を図るため昭和24年に設立され、経済、環境衛生、家庭教育、交通安全、福祉保健、男女共同参画推進、広報及び防災対策の各委員会を設け、活動の強化に努めている。

この他、女性団体活動として、女性防火クラブ、J A女性部、福祉ボランティア連絡協議会、保育士会、母子寡婦福祉連合会、更生保護婦人連合会、消費者団体連絡会、北陸婦人問題研究所等の団体や、ボランティア、読書、趣味、バレーボール等のグループ活動がある。

〔5〕家庭教育

近年の家庭を取り巻く社会環境の著しい変化は、家庭の持っている教育機能にも大きな影響を与えている。こうした状況の中で、明日を担う子どもたちに対する家庭の教育力の回復は重要な課題となっている。

本市の家庭教育は、乳幼児から思春期までの子を持つ親に対しての学習機会の提供を重視している。

1. 家庭教育学級

乳幼児から10代にかけての子どもを持つ親に、子育てに関する学習の機会を提供する。学習内容は、子どもの心身の発達過程、親や家庭のあり方や現代の家族にかかわる事例等様々な問題を取り上げている。

<平成23年度家庭教育学級開設状況>

市費委託学級	115学級 55,000円/学級 (障害のある児童を持つ親の学級は60,000円)
学級担当者研修	3回

2. 子育て地域人材養成事業

地域において子育ての悩みや疑問の相談を受けたり、家庭教育に関する意識啓発を行う家庭教育サポーターを養成する。

3. かなざわ親塾

心と命を大切にできる豊かな人間性をもった子どもたちを育てていくため、親自身が気づき、学び、成長するための学習機会を提供する。

(1) 家庭共育のすすめ

「絆」を大切にする子どもの育成を目指し、様々な学び・ふれあいを通して、「親同士・親子同士のつながり」の充実を図る。

①入学前セミナー

小学校・中学校へ入学する子どもを持つ保護者を対象に家庭教育の重要性についての意識啓発を図るためのセミナーを開催する。

②ふるさと文化、野外活動等の体験

③かなざわ親子サミット

(2) 企業・地域への啓発事業「みんなで家庭教育！」

企業の職場研修や地域団体の研修の一環として、働く保護者等を対象に家庭教育の重要性についての意識啓発を図る。

〔6〕 顕彰制度

顕 彰 者	顕 彰 名	制度発足	平成22年度実績
市 長 表 彰	社 会 教 育 功 労 者 表 彰	昭和28年	8人
	小 さ な 親 切 実 践 者 表 彰	昭和49年	944人 幼児8人、小学生933人 中学生3人
	優 良 子 ど も 会 表 彰	昭和61年	3団体
市 長 感 謝 状	公 民 館 優 良 役 職 員 感 謝 状	昭和58年	7人
	P T A 功 労 者 感 謝 状	昭和52年	3人
教育委員会／校外 指 導 連 盟 表 彰	善 行 児 童 生 徒 表 彰	昭和23年	13件40人 小学生7件28人 中学生6件12人
教育委員会感謝状	公 民 館 永 年 勤 続 職 員 感 謝 状		9人
	優 良 P T A 感 謝 状	昭和45年	2団体
	P T A 功 労 者	昭和57年	3人